

平成 28 年度 医療科学類キャリア支援講演会の報告

医学医療系 上妻 行則

去る平成 28 年 8 月 12 日（金）14 時から臨床講義室 A において平成 28 年度医療科学類キャリア支援講演会が開催された。本講演会は様々な分野で活躍する医療科学関連の先生方や医療科学類の卒業生に講演していただき、将来のキャリアパス設計の一助になればと毎年キャリア支援担当教員が中心となり開催されている。本年度は、GE ヘルスケア・ジャパン（株）の上野瞳氏（本学類平成 21 年度卒業）、つくば i-Laboratory の金沢陽介氏（本学類平成 23 年度卒業）、NTT 東日本関東病院の青山希氏（本学類平成 26 年度卒業）、株式会社マイナビの相良美智郎氏にご講演いただいたので報告する。

講演に先立ち本学類の小池朗教授より「現段階で進路決定している人、まだ決めていない人もこのキャリア支援講演会を参考に自分の今後について良く考えてほしい。」との開会の挨拶があった。

最初の講演は、GE ヘルスケア・ジャパン（株）の上野氏。上野氏は、平成 21 年度に本学類を卒業後、本学大学院に進学された。大学院では、分子発生生物学研究室（小林麻己人講師指導）でゼブラフィッシュを用いた研究に励み、修士課程を修了後 GE ヘルスケア・ジャパン（株）に超音波アプリケーションスペシャリストとして入職された。アプリケーションスペシャリストとは、機器の性能を最大限に活用してもらうために医師や技師に対して装置・検査・臨床・最新技術の知識や

情報を提供し、サポートを行うことを主とする職業である。上野氏はなかでも産婦人科や腹部（消化器）、心臓（循環器）などで用いられる超音波画像診断装置のアプリケーションスペシャリストとして製品購入前・後のデモンストレーションやサポート、研究のサポートなどを行っている。アプリケーションスペシャリストは出張が多く、「1 日に 2～3 件の病院をまわってサポートし、月に 1～2 回は学会などにおいてセミナーのサポートを行うなど多忙で生活も不規則になりがちな職業であるため、自分をコントロールすることがとても大切です。」と現職の苦労を語られた。では上野氏は様々な外資系の会社があるなかでなぜ GE を選んだのかについて、「元々メーカーへの就職を希望していたが、在学中臨床検査を学ぶうちに、早期診断の重要性を知り、患者様の早期診断に貢献できる仕事をしたいと考えました。そのためには臨床検査薬の開発を行うこと、画像診断装置のアプリケーションスペシャリストとして関わることの 2 つの選択肢がありましたが、就職活動を通して GE はグローバル企業であるのは勿論、人の成長のためのトレーニングが豊富であり、お互いを営める文化がある点が非常に魅力的で GE に入職したいと考えました。」と語った。また GE でのグローバルトレーニングを通して、「他国の方とのコミュニケーションをする努力の必要性や日本の現状把握と要望をしっかりと持つことの必要性やそ

れを主張することの重要性を感じています。」と語られた。本学類の学生も約半数が大学院に進学し、その後メーカーへの就職を希望する学生も多くいるため、上野氏の就職活動の「軸」を持つことの大切さについての講演は大いに参考になったに違いない。



次の講演は、つくば i-Laboratory の金沢氏。金沢氏は、平成 23 年度に本学類を卒業後、本学大学院に進学され血液内科研究室(千葉滋教授指導)で血小板産生機構について研究に励み、修士課程を修了された。その後本学附属病院検査部に入職され、現在はつくば i-Laboratory にて検査業務を行っている。金沢氏のご自分の大学院生活を「研究はとても辛いことのほうが多いが、自分の行った研究が論文となって、成果として残せたときの喜びは非常に大きい。」と振り返る一方、「テーマ or 雰囲気研究室を選ぶか非常に悩むところだと思いますが、先輩の話を良く聞いてじっくり選んでください。」とも語り、現在卒業研究先を検討している学生へのアドバイスもしていただいた。さらに金沢氏は、「将来研究者になるから臨床検査技師の免許はいらない、必要ないと考えている学生もいるとは思いますが、大学院進学を考えてい

ても在学中に絶対に免許は取得しておくべきです。」とご自分の経験も踏まえて語られた。また金沢氏は、大学病院就職を決めた点について「研究と臨床の両方に携わりたいと考えたことや大学病院ならどの検査部門でも多くの疾患を経験することは勿論だが、稀な疾患に接することが出来る点も魅力的です。」と語った。金沢氏は現在の業務をこなすのみならず、学会発表や研究ができる大学病院の環境を最大限に活かし、将来的に博士課程への進学も希望しているという。近年研究者を志して本学類に入学する学生も多く、臨床検査技師国家試験受験資格取得について悩んでいる学生にとって貴重な講演となった。



次の講演は、平成 26 年度に本学類を卒業後、NTT 東日本関東病院に入職され 2 年目である青山氏。青山氏は卒業後 2 年目であることは勿論、多くの在学生にとっては最近映画化された某有名漫画のモデルである先輩として知られている存在である。青山氏は、NTT 東日本関東病院に入職を決めたきっかけについて、「病院見学に参加した際の検査部やスタッフの雰囲気が非常に良く、新人教育に熱心であるとの説明を受け、ここで自分も働きたいと考えることができたことです。」と語る

一方、「就職を希望する学生は是非病院見学に参加し、実際の病院、検査部の雰囲気を感じてほしい。」と後輩に病院見学の重要性・必要性をアドバイスされた。青山氏は現在の職場について、「NTT 東日本関東病院では新人社員の 3 年間の目標(①配属された部署の仕事をおぼえること、②2 級臨床検査技師資格認定試験に合格すること、③学会発表すること)が設定されており、非常にやりがいがある。」とも語り、現在生き活きと働かれている様子などが紹介された。また最近ご自身が経験された急性白血病の患者さんを発見した際のエピソードは大変興味深く、近年検査機器の自動化が進むなか機器が出す結果を鵜呑みにすることの恐ろしさを改めて感じさせるものであった。このような経験をされた青山氏は、「最後に頼りになるのは自分の知識と経験であり、知識は在学中から身につけられるので是非頑張って知識を蓄えて下さい。」と在学生にエールを送ると同時に、ご自分の働き甲斐として「白血病を最初に発見できるのは血液検査に携わる臨床検査技師であり、ただ検査する、機器に検体をしかけるなら臨床検査技師が国家資格である必要はない。」と臨床検査技師の重要性について熱く語られた。さらには「臨床検査技師である以上検体の向こうに患者さんがいることを常に意識し、人の命を救うために職務に邁進したい。」とご自分の信念についても話され、現在病院就職を希望する学生にとって良い刺激を与えられた講演であったと思う。



最後の講演は、株式会社マイナビ 就職情報事業本部の相良氏が「就職活動の準備・心構え」というタイトルで講演された。本学類生が就職することが予想される病院は勿論、近年就職先として挙げている外資系の企業などについて就職活動の流れや採用試験でのポイントなどについて分かりやすく解説していただいた。また求められる人材について相良氏は、「求められる力は、企業でも病院でも同じ。主体性は、対モノ、対ヒトでもあらゆる場面で求められており、特に面接ではその点がチェックされている」と語り、一般企業は勿論、病院就職を考えている学生にとって就職活動の心構えなどや準備するきっかけを与えていただけた講演であった。

本学類では、近年研究者になるため大学院進学を希望する学生が多いことから大学院進学後の進路について心配し、先輩の話を聞いてみたいと考える学生も少なくない。また大学院進学が増加に伴い臨床検査技師国家資格の意義について疑問を持つ学生も少なからずいるのは事実であり、本講演会はそのような心配や疑問を持つ学生にとって有意義なものになったと思われる。一方、臨床検査技師として医療に貢献することを目標に勉学

に励む学生も多く、病院の第一線で活躍されている先輩の姿を見てこれからの励みになったことは間違いない。



就職活動のポイントを語る相良氏
(株式会社マイナビ)

筑波医療科学 第12巻 第3号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
発行日	2016 年 9 月 23 日